

## 擁壁脇へ投下した埋戻土に埋まり同僚が死亡！

— 死角箇所へ投下時に安全確保を！ —

- ☆ 1月15日午前、大崎市鳴子温泉の国道改良工事現場で、埋め戻し土砂に埋まり死亡するという事故が発生しました。
- ☆ 現場は鳴子ダムの北側山岳部で工事中の道路改良工事（ただし、災害発生箇所付近は道路が新設されるもの）で、発注者は国、施工者は地場店社です。
- ☆ 被災者は同社の社員（44歳・男性）であり、他の工事現場では現場代理人を勤めるベテランですが、本件工事が遅れていたこともあり応援でこの現場に来ていました。
- ☆ 被災箇所付近の道路は、谷側が垂直の土止め擁壁（テールアルメ工法）で止められていましたが、この施工の際に掘削された溝が事故当日朝の時点では溝のまま残っており、次の工程で行う予定の排水溝作りの前に埋め戻し作業が行われました。
- ☆ 当現場全体は朝8時ころから開始されましたが、被災者とバックホーのオペの二人は、擁壁脇の溝の埋め戻し作業などを担当することとなりました。  
オペは道路上に置いたバックホーで擁壁脇の溝に土砂を投下し埋め戻しをしました。作業は1時間弱で完了しましたが、お昼前、被災者の姿が見えないことに気づき、念のため埋め戻し土を掘ってみたところ、被災者が埋まっていたものです。
- ★ 被災者が危険箇所へ立入った理由は不明ですが、埋め戻し作業等の担当であったことから埋め戻し状況の様子を確認しようと、間歇的に動くバックホーの隙をみて入ったことも考えられます。
- ◎ 死角が生ずる作業や物の投下作業では、監視人等の配置、立入区域の設定と順守等について検討しましょう。

